



「学校教育目標」  
 絆を深め、地域社会に  
 貢献できる生徒の育成  
 ○自ら学ぶ ○思いやる  
 ○体を鍛える

文責 竹田 圭志

## 「おがわ学フォーラム」大盛況でした

11月27日(土)、小川町内小・中学校を会場に、「おがわ学フォーラム」が開催されました。

本校では、3校時に体育館で3年1組が、今まで総合的な学習の時間等で取り組んできた「小川和紙のこれからを考える」について、各グループごとに取り組んできたことを発表する「発表会」を実施し、講師としてお招きした中島 知子さんから講評とご指導をいただきました。

当日おいでいただいた前埼玉県教育長の小松 弥生 様や小川高等学校の蕨塚 雄一 校長先生からも、調べ学習も深く掘り下げてよく調べていたし、実際に和紙を使って作成したサンプル作品（和紙で作成のバッグ、ランドセル、眼鏡ケース、文房具、眼鏡フレーム、ローチェア）の素晴らしさ、聞く人の心に訴えかける発表方法、真剣に聞く態度、また、コロナ禍にあってこの3年間で取り組んできた経緯・・・と、すべてにおいてお褒めの言葉をいただきました。ご多用の中ご参会いただきました保護者の皆様や地域の皆様からも、惜しみのない拍手が送られ、大盛況の中、「小川町フォーラム（学校公開授業の部）」は終了しました。数時間の取組でここまでの発表までこぎ着けた3年生たちの頑張り、また、授業を担当した齋藤先生の努力にも感謝いたします。



「しっかり調べる」ことは、「知ること」の第一歩です。



自作サンプルでアピールしたグループも多かったです。



商品アピール「どう発信し売り込むか？」の課題にもチャレンジしました。



実際に「小川和紙」の普及に努める中島さんのお話には切実な願いを感じました。



サンプルとしてお持ちいただいた「和紙の可能性」を感じさせる中島さんの作品。



授業終了後、生徒の作品に人だかりが・・・

午後の伝統工芸会館で実施された「おがわ学フォーラム（ポスターセッションの部）」では、学校代表として1年生4名が、総合的な学習の時間で取り組んできた「小川町ツアーを考えよう」について発表しました。

地域の皆様はもちろんのこと、高田 直芳 埼玉県教育長をはじめ、来賓としてお越しいただいた埼玉中の教育関係者も大勢参観する中、いよいよ本校の発表が始まりました。相当緊張する状況だったと思いますが、4人とも堂々と素晴らしい発表を披露しました。発表ごとに会場から大きな拍手が送られ、大役を終えほっとしている姿が、なんとも微笑ましかったです。重大任務を終えた担任の沼倉先生、1学年主任の杉山先生の安堵した表情も印象的でした。



独特な会場の雰囲気には驚くことなく堂々と発表しました。



参観者の皆さんも、真剣に聞いてくださいました。



終わって「ほっと一息」満面の笑顔です。

今回、ゲストティーチャーとしてお招きした中島 知子さんは、長年にわたり小川和紙の普及に努め、町内小学校で卒業式用の和紙のコサージュ作りの指導も手がけられておいでです。中島さんのお話にもありましたが、小川町には 1300 年の歴史を経て受け継がれてきた「和紙」をはじめ、伝統的な工芸品や特産物がたくさんあります。今まで人から人へ、手から手へと引き継がれてきた大切な財産であり、次の世代につなげていくのはとても大切なことです。まずは「知ってもらいたい」「使ってもらいたい」というところからスタートです。「おがわ学」の取組を通して、生徒たちの心の中に、そんな「使命感」が確実に芽生えていると感じる一日でした。

コロナ禍にあって、思うように授業が進められない中、「おがわ学」に関わって様々な取組に携わった全校生徒、全教職員、保護者や地域の皆様、そしてゲストティーチャーの皆様。多くの皆様の力が結集されての成功であったと、改めて感謝申し上げます。

## 「ペシャワール会小川」石橋 忠明さんを紹介しました

11月26日(金)の学校朝会では、小川町下里にお住まいの石橋 忠明さんを紹介しました。

干ばつと空爆で荒廃し、水も食料も枯れはてたアフガニスタンの土地に井戸を掘り、用水路を作り「緑の大地」へと生まれ変わらせた日本人医師、中村 哲さんをご存じでしょうか。2年前の12月4日にアフガニスタンで武装勢力に銃撃され亡くなったというショッキングなニュースを記憶されている方もいらっしゃるでしょう。昨日(11/29)、ある新聞の朝刊にも、中村医師殺害計画を当時の地元警察や本人が「事前に察知していた」ことを伝える記事が大きく1面に掲載されていました。今回お話を伺った石橋さんは、中村医師の活動に感銘を受け、中村医師と共に2003年から5年間アフガニスタンで用水路建築作業をしたという、貴重な経験をお持ちです。当時のアフガニスタンは、アメリカで起きた同時多発テロの首謀者がアフガニスタンに潜伏しているという理由で、米軍機の爆撃が毎日のように繰り返される状況でした。一応、人道的な支援活動として、現地軍・米軍共に理解しているので、直接爆撃の標的とされることはなかったようですが…。石橋さんも「命がけの作業だった。」と当時を振り返っておいででした。



アフガニスタンで用水路建築作業の合間にくつろぐ中村医師と石橋さん。



下里の「ペシャワール会小川」ギャラリー「無我夢中」2時間もお話をしてくださった石橋さん。

用水路の完成によって65万人という多数の難民の命が救われました。アフガニスタンでは、当時はもちろん、今でも(現在のタリバン政権も)中村医師やペシャワール会(中村医師の活動を支援する会)に尊敬や感謝の気持ちを持ち続けているそうです。

学校朝会では、中村医師や石橋さんの活動を紹介し、SDGs(持続可能な開発目標)や国際情勢への関心を持ってもらいたいことを伝えました。石橋さんも、中学生に「中村医師の活動について伝えたい!」と話しておいでした。

＜修学旅行中のメール配信＞ 2年生は明日から修学旅行です。旅行中、必要に応じて学校連絡メールで状況をお知らせします。時折、受信をご確認ください。帰着日は「東京駅出発時」と「首都高速通過後」に「到着予想時刻」をメールにてお知らせします。学校へのお迎え時刻の参考にしてください。なお、帰着日の保護者によるお迎えが「あるのか、ないのか」を事前にお子様に伝えておいてください。